

民国連携した森林被害への対応について

網走西部森林管理署 森林技術指導官 佐々木 英樹
オホーツク総合振興局 西部森林室 遠軽事務所 専門普及指導員 鈴木 貴也

取組の背景

これまで、私有林・国有林の各機関・関係者は業務上の直接的な繋がりが少なく、現場職員間の「民国連携」の必要性は感じながらも、地域林業全体の問題点や課題を共有し、具体的に取組んだ事例が少ないのが現状でした。

近年、道東では民・国有林を問わずカラマツハラアカハバチ(以下、ハバチ)の発生が拡大、長期化傾向にあります。

カラマツ資源の多い当流域においても、正確な情報収集・共有は、風評や二次被害等への適切な対応の面で非常に重要です。

ここでは「市町村森林整備計画実行管理推進チーム」の広域課題として実施した、ハバチ発生状況等の情報収集、情報共有における民国連携の取組について報告します。



取組の内容

◇これまで

国有林ではこれまで、ハバチの調査は実施していなかったが、これだけ長期に及び被害を受けることにより二次被害(穿孔虫)が懸念され情報共有と地域との連携が急務となりました。

◇現地調査

予察調査と発生状況調査

◇情報共有・情報提供

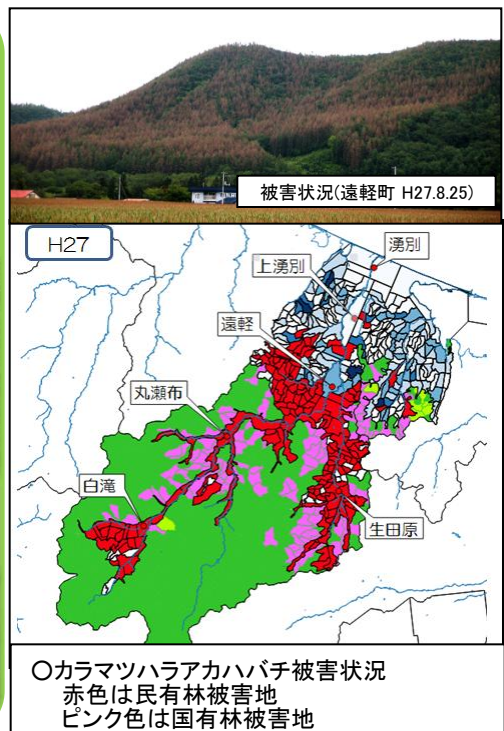
調査報告書

森林GISを用いた発生状況の把握

発生区域MAPの作成による情報提供

◇民国連携の推進

- ①「チーム」を通じた情報共有(調査報告書)
- ②国有林での被害把握の検討
- ③国有林での学習会、研修会の開催
- ④国有林における調査の実施
- ⑤GISデータを共有して情報を集約



成果

- 民国問わず「流域の森林」に関する一体的な情報提供・共有
- 地域林業全体の課題に民国連携して取組むための体制構築

今後の展開

◆「カラマツハラアカハバチ」に関する取組

今後も発生拡大が予想されることから、チームでは①調査実施の効率化(実施時期、地域の分担) ②情報集約方法の改善 ③公共施設等にポスター・パンフレットを設置し、地域住民に対し効果的に情報提供します。

◆地域のニーズに基づいた、より実質的な「民国連携」に向けた取組

連携体制が構築されたことにより、日常的に細やかな情報共有が可能となりました。

今後は地域の林業関係者のニーズ(立木評価や事業費積算の基礎的知識、森林施業に関する基礎的技術の習得)や流域内の課題に対して、国有林が有する技術を活かした「実践的な技術支援」を実施します。